

講義名	アジア史			授業形態	
担当教員	河口 和範	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

世界人口の約80%を超える、広大な面積を誇るアジア。本講義の前半では主に東アジアの歴史を、各国史ではなく一体のものとして議論を進めます。各地の土着国家の隆衰と13世紀のモンゴル帝国の誕生から読み起こし、欧米列強による植民地化、日本の占領統治の影響、第2次世界大戦後の独立と経済発展、欧米など外部勢力との相互作用の双方に着目しながら「アジアとは何か」を探る。後半では東南アジアを中心にASEANによる統合の深化、民主化の進展と暴落、日本との関わりが深いこの地域は、歴史的に幾多の試練を経験しながらも、近年ますます存在感を高めている。これらを東アジア史・世界史との関連を踏まえつつ、多様な人々・文化が往来し、東西世界の交流の要となってきた東南アジアの歴史を学びます。

到達目標

本講義では、「アジア史」を知ることにより、日本をはじめとする東アジア、世界史を通しての東南アジア史について学びます。本講義を履修する日本人学生はこれまで辿ってきた日本と海外との歴史的立ち位置、留学生は本国では学んだことのない新たな知見を習得することを到達目標とする。また、本学のディプロマ・ポリシーの、「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができること」を最終的に身に付けることができるようになる。

提出課題

進捗状況により、レポートを課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポート課題のフィードバックはその登壇の授業開始後にを行います。

評価の基準

レポート課題 - 20点
 期末試験 - 70点
 授業への参加態度 - 10点
 レポート課題と期末試験を中心に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

教科書は使用しません。
 第1回講義では講義前に資料を配布します。
 第2回講義以降の資料はキャンパスワロスに提示しますので、印刷し持参するか、パソコンやタブレット等にダウンロードし講義中に閲覧できるようにしてください。

教科書

.使用しない。

参考図書

.アジア近現代史「世界史の誕生」以降の800年.	岩崎育夫著	中公新書	680	9784121025388
.東南アジア史10講.	吉田元夫著	岩波新書	900	9784004318835

その他

資料等は授業中に適宜配布します。

授業計画

第1回：【前半】ガイダンス、アジアの原形
 アジアの概況
 宗教と土着国家
 モンゴル帝国登場前の外部勢力との交流
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第2回：モンゴル帝国 世界史の誕生
 モンゴル帝国の登場と支配
 モンゴル帝国後の土着国家
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第3回：近代日本のアジアへの進出
 アジア進出の背景とその過程
 日本はアジアをどう受入れたのか
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第4回：独立・戦争・混乱
 独立の仕方
 アメリカの軍事関与
 混乱する独立国家
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第5回：経済開発・民主化・アジア共同体構想
 経済開発
 民主化
 緊密なアメリカとの経済社会関係
 「東アジア構想」への道
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第6回：【後半】青銅器文化と初期国家の形成（先史時代～9世紀）
 東南アジア地域の精進
 青銅器文化と初期国家
 古代国家群の隆衰
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第7回：中世国家の展開（10世紀～14世紀）
 東南アジアの中世を規定した要因
 農業国家が急成長した中世国家
 交際国家の勃興
 転換期としての13～14世紀
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

第8回：交易の時代（15～17世紀）
 「交易の時代」の背景
 「交易の時代」の新興国
 新たな外來商人の活躍（ポルトガル、スペイン、日本、オランダ）
 交際の時代」の大航海時代
 マレー・イスラム世界の展開
 予習：キャンパスワロスに事前に提示する資料をもとに、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること（90分）
 復習：講義で取り上げた内容の復習（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標に挙げた通り、本講義を履修することによりディプロマ・ポリシーの、「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができること」を最終的に身に付けることができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教員による一方的な講義ではなく、講義中に学生に質問しますので当てられた学生はその質問に答えられるようにしっかり予習を行って講義に参加してください。

実務経験の有無及び活用

備考